

この街にこの人あり

小学校の英語教育を支えるJTEという仕事 ～英語を通じて、子どもたちの世界が広がります～

今回は、日本人英語指導助手（JTE）として、杉並区の小学校で先生方とともに英語指導にあたっていらっしゃる石川玲子さん、清水有美子さん、小楠千佳さんにお話を伺いました。



■なぜJTEになられたのですか。

杉並区は小学校英語教育特区の認定を受け、15年前から英語教育が始まっていますが、人材育成も並行して進められ「すぎなみ地域大学」に講座（現在の「日本人英語指導助手養成講座」、以下JTE養成講座）が設置されてきました。石川さんは2期生、清水さん、小楠さんはその後輩です。清水さんは帰国子女であり長じて海外生活を経験、帰国後お子様方が世話になった小学校に恩返しをしたいという気持ちを持ったとのこと、小楠さんもご夫君の海外勤務の関係で海外生活を経験、米国が外国人に対し英語教育に熱心であること、ご自身も現地で英語を学んだ経験に照らして、日本でもやってみようと思われたとのこと。そして石川さんの場合、教員免許をもっているにもかかわらず、「地域大学」で学んだJTE養成講座が面白く、英語指導助手になるきっかけになったとのこと。

杉並区は小学校での英語教育の導入が早く、また学校をコミュニティ・スクールとすることを推進しています。後者はコミュニティが支える学校という意味ですが、英語教育と無縁ではありません。JTEは「地域大学」などを通じてコミュニティが育てているとも言えるからです。JTE養成講座受講希望の倍率は常に高く、杉並区の英語人材は厚いとのこと。現在、石川さんは杉九小、清水さんは富士見丘小、小楠さんは西田小と松ノ木小で指導にあたられています。杉並区では現在約80名のJTEがいらっしやり活躍中です。



石川玲子さん



清水有美子さん



小楠千佳さん

お三人へのインタビューのきっかけは、今年5月の当センターの開催講座として予定されながらコロナウイルス禍のため中止となった『簡単英語でおもてなし講座』の講師陣が含まれていたことでした。同講座が改めて開催されることを願っています。

■どんな教育活動をなさっていますか。

2020年度から小学校の外国語は、「教科」の扱いに変わりました。これまでも「外国語活動」の名称で、低学年から英語に慣れ親しむことを目標に授業が行われていましたが、本年度から5、6年生は教科としての外国語に変わり、週2時間、年間で70時間、英語の基礎を身につけるための授業が行われるようになっています。なお、3、4年生の児童は引き続き「外国語活動」としての英語の授業が行われます。

教科となることで、児童の達成度の評価が始まります。まだ聞く「話す」だけでなく「読む」「書く」も加わりますが、小学校の英語は「語学」としてではなく、自然に言葉が出せることによるコミュニケーションの手段としての位置づけが中心であることに変わりはありません。子どもたちの適応力には驚くべきものがあります。街で会った子どもたちが授業時間の延長のように英語で話しかけてくれることもあります。



教材の例

■これからの抱負はいかがですか。

今や周囲にはたくさんの外国人がいる時代です。英語はやはり国際語、子どもたちには外国人と英語によってコミュニケーションがとれることの楽しさ、世界から知識を得ることができること、日本語ができない人を助けることもできることなどを実感して欲しいとおっしゃいました。

そして、英語を通じて自由な発言ができることや積極性を体得し、そういった子どもたちに日本を変えて行って欲しいという思いも語られていました。

JTEに関する問い合わせ先

杉並区立済美教育センター教育指導係

電話：03-3311-0021